



VOICE

読者のページ

2024年1月号(52巻1号)へ寄せられた
読者の皆様からのご意見・ご感想を紹介します。

特集

実際のところ、パニック値対応は どうすればいいのか

- 生化学担当で、日常的にパニック値を報告しています。主治医に電話で連絡しますが、看護師への伝言になる場合、伝達状況に気が揉めます。対応記録を紙面で残すことを検討したいです。 **まつつん (山口県)**
- 検査センターの項で「施設別パニック値報告」の存在を知り、自院の外注先検査センターに照会しました。対応可とのことで、早速変更を依頼しました。有益な情報をありがとうございました。 **HH (兵庫県)**
- パニック値の報告について、施設ごとに内容がまとまった記事ははじめてで、他施設の運用や問題点などがわかり、とても興味深かったです。 **JS (神奈川県)**

MT Seminar

疑う虫種が不明の場合の虫卵検査

- 寄生虫検査はまれにしかなく、遭遇した症例を共有する程度です。グローバル化に伴う外国人の増加で、今後はもっと需要が高まるだろうと感じました。良い記事だと思います。 **みい太郎 (兵庫県)**
- 寄生虫卵は下痢便からと思い込み、固形糞便なら虫卵は出ないかも、と先入観で鏡検していました。船内で厨房業務に従事する船員の虫卵検査は、直接法でなく集卵法だと再確認しました。 **まっちゃん (和歌山県)**
- 寄生虫検査を行う機会は少なく、どのように検査を進めればよいかわ迷うことがあります。今後はこの記事を参考に検査を進めようと思います。 **ちくわ (北海道)**

基礎講座

自己血が使えない時の原因と考え方

- 今まで輸血業務に携わったことがありません。何から何まで、とても興味深く読みました。 **YK (東京都)**
- 自己血輸血は新人時代に1例(採取のみ、使用せずそのまま廃棄)だけ経験しました。その後、現在に至るまで自己血輸血の機会がなく、記憶も薄れていたため、この記事であらためて勉強できました。注意事項も要点がまとめられていて、とてもわかりやすかったです。 **さんきち (山口県)**
- 自己血の取り扱いについて学ぶことができました。外観チェックを的確に実施していこうと思います。 **HI (神奈川県)**

臨床検査 Q&A

尿試験紙の亜硝酸塩(+), 尿沈渣で細菌(+)の検体を培養検査に提出すると、検査結果が陰性となることがあります。どのような原因が考えられますか？

- 沈渣では確かに菌がいたのに、培養で陰性で返ってくる場合がまれにありました。医師への説明にも、この記事が役に立ちました。 **MT (滋賀県)**
- 質問者の方と同じ疑問をもち、尿試験紙や尿沈渣の評価を誤ったのではないかと不安になった経験があります。疑問が解決できて助かりました。 **HY (福岡県)**
- よく遭遇する事例ですが、なんとなくやり過ごしていました。この機会に知識を得ることができて良かったです。 **プリン侍 (新潟県)**
- 確かにこういったケースがあります。抗菌薬使用の有無などを確認したいと思います。 **みい太郎 (兵庫県)**

ご意見・ご感想は巻末の「ホットラインカード」、またはwebアンケートにてお寄せ下さい。ご投稿をお待ちしています！

